

国内事例
in Japan

2

ボランティアとしての参加とパートナーシップ

星野智子 (SUSPON 副代表／ボランティア部会)

東京2020大会を支えるボランティアがその後に求められる持続可能な社会を担う人材となるようにと活動している取組がある。ボランティア活動によって市民参加とパートナーシップが進むことを期待した動きだ。

東京2020大会を きっかけに行動しよう という呼びかけ

SUSPONは、東京2020大会を持続可能な大会とすることをきっかけに、その後の日本や世界の持続可能な社会づくりにつなげていくことを目指しているNGO/NPOによって立ち上がったネットワークである。現在18団体が加盟しており、組織委員会への提言活動や、部会ごとの実践活動を行っている。部会の一つにボランティア部会があり、これま

でイベント時のボランティア活動をコーディネートしてきたNPOのリーダーを中心に作られた。東京2020大会会期中に国内外から東京を訪れる人は1,000万人を超えると予測されており、必要なボランティアは会場周辺での観光案内などをする都市ボランティアも含めると11万人とも言われている。この機会を活用したボランティア活動の促進と、その先に持続可能な未来をつくることのできる人材の輩出を目指している。

ボランティア活動の意義

ボランティア活動は市民が社会参加する機会を提供し、人への思いやりや助け合いの精神を豊かにしてくれる。活動で出会った仲間と助け合

ったり、問題が生じた時にどう克服するか考え乗り越えた経験は、普段の暮らしからは得られない経験として自己成長につながり、その後の人生に影響を与える。何かをやり遂げた成功体験や達成感、自信や経験となり、やりがいと価値を感じることができる。

ボランティア部会で行っているさまざまな活動においても、人との出会いとコミュニケーションを通じて感じたこと・思ったことは、多くの人の考え方に影響を与え、行動変容を起こすことが実証できている。例えば環境への配慮やイベント会場内外で人が笑顔になるような工夫を示すことで、ボランティアだけでなく周囲の意識も変わっていき、よりよい環境を保とうという気持ちが社会に広がっていくことを期待している。



フジロックフェスティバルでのゴミ分別・リサイクルのボランティア活動の様子



入場ゲートで、環境配慮についてのメッセージが入ったゴミ袋を配布

高度成長期だった前回(1964年)の大会とは違い、東京2020大会は持続可能な社会づくりの視点から持続可能性への配慮を最大化し、課題解決のモデルを国内外に示すことが期待されている。SDGsの前文には「スポーツが持続可能な社会づくりの鍵となる」ことが記載されており、SDGsへの貢献は組織委員会の運営計画にも明記されている。環境配慮だけではなく、人権、教育、福祉、ジェンダー、経済発展、格差などあらゆるテーマにおいても公正なあり方が問われている。ボランティアがこのような認識も踏まえながら活動することで、SDGs達成に寄与することが期待できるだろう。

持続可能な未来をつくるボランティアとは

東京2020大会でのボランティア活動の種類は来場者の案内・誘導、通訳、警備や記録係の補助、ごみの分別・リサイクル、身障者のケアなどさまざま。活動をスムーズに行うために入念な行動計画、予習や研修、そしてこれらを行うリーダー、コーディネーターの存在も欠かせない。SUSPONのボランティア部会を構成する団体は、主にイベント時のごみ対策やリユース食器の普及、自然保護活動などに従事しているが、どのような活動においてもボランティアを受け入れるために大切なポイントがある。ボランティア部会ではこれらの経験をまとめ、ボランティア活動を通じて持続可能な社会づくりに気づいてもらうこととその方法を示すために、「持続可能な未来をつくるボランティアのためのガイド」と称した冊子を作成、2018年2月

に発行し、配布している。冊子の中では、より良い活動のためのチェックリストとして、例えば、以下のようことを示している。

- (1)活動の意義や役割を理解してもらうこと
- (2)気持ちよく活動してもらうための配慮(健康や飲食ケア)
- (3)自発性を引き出す
- (4)チーム力を発揮する
- (5)成果を共有する
- (6)活動からの気づきを促す

また、ボランティアをする人に求める心がけとして、目的意識やホスピタリティの気持ちを持つこと、責任感を持つことなどを挙げている。

参加型・パートナーシップ型の社会をつくる人材としてのボランティア

すべての人が健康で平和に安全に暮らせる、持続可能な社会になることは、誰かがやってくれると思って待っているだけでは達成できない。ボランティア活動を通じて、自発性や積極性、協調性、コミュニケーション力などを培って、さまざまな社会課題を個人・団体が協力・連携し合い、解決できるような人が増えることが最も重要な要素の一つである。人と人とのコミュニケーションを円滑にし、情報や人材などの資源を持ち寄り、役割分担し、対等な立場で課題解決にのぞむパートナーシップ型の社会を実現するため、またSDGsの理念として掲げられている「誰一人取り残さない」を実現するためには、市民の声をしっかり反映させることも欠かせない。このような社会を実現するためにも“持続可能な未来をつくるボランティア”の存在がますます必要となるだろう。



持続可能な未来をつくるボランティアのためのガイド

そんな人材を一人でも多く増やすために、東京2020大会がその好機会になることを望んでいる。

サスポン SUSPON

(持続可能な
スポーツイベントを実現する
NGO/NPO ネットワーク)

持続可能な大会とすることをきっかけに日本や世界の持続可能な社会づくりにつなげるように関係団体や企業に働きかけていくことを趣旨としたNGO/NPOのネットワーク。2016年に発足。代表は羽仁カンタ、事務局は地球・人間環境フォーラム。ボランティアの他に、生物多様性、ユース、ごみゼロ、エネルギー、責任ある調達、平和とスポーツ部会がある。



持続可能なスポーツイベントを実現する
NGO/NPO ネットワーク
Sustainable Sport
NGO and NPO Network